令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程
学年	2年A組
科目名	人文科学概論
単位数	2単位
授業方法と時間数	講義　30時間
担当教官名	小野澤　昇
授業の内容 （授業科目の概要）	日常の中で耳にすることの多い随想、俳句、短歌、古文、漢文を学びます。また、コミュニケーションの方法を学びます。
到達目標	日常の言語活動（聞く・話す）を通して、コミュニケーション能力の向上を図ること。また、文学作品を読み味わい、鑑賞や創作ができること。

授業計画		
	1. オリエンテーション　　人文科学概論で学習すること	0.5
	2. 随想　　さくらさくらさくら	3
	3. 現代の短歌	3
	4. 短歌の鑑賞・創作	2
	5. 問診と医療面接	3
	6. 古文　　奥の細道	3
	7. 前期学習のまとめ・復習	0.5
	前期計	15
	8. 古文　　奥の細道ー松尾芭蕉の旅	1
	9. 漢文　　故事成語	3
	10. 新聞を読む　コラム	2
	11. 独楽吟　　鑑賞と創作	3
	12. 新美南吉の童話	3
	13. 小説　　「杜子春」芥川龍之介　「高瀬舟」森鴎外	2
	14. 後期学習のまとめ・復習	1
	後期計	15
	年度末計	30

実務経験の有無 その活かし方	無	

成績評価の方法	筆記試験（前期・後期）、授業で課した課題・創作への取り組みを総合して評価します。
履修上の留意点	年間に1回以上、俳句・短歌などの創作作品の提出を求めます。
予習・復習の 進め方	毎回の授業後に、振り返り学習をしてください。 短歌などの創作には、意欲的に取り組んでください。
使用教科書	授業内容に応じ、プリントを作成・配付します。（墨字・テキストデータ・点字）
参考書/参考資料	必要に応じて配付します。

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	社会科学概論	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	講義（演習を含む）/　30時間	
担当教官名	吉井顕穂	
授業の内容 （授業科目の概要）	1. 社会保障制度の一つである社会福祉制度について学びます(4～6月)。 2. スクリーンリーダーソフトを組み込んだWindowsパソコンを使用し、エクセル、カルテ名人の操作について学びます(7月～令和4年2月)。	
到達目標	1. 社会福祉制度の理念や仕組みを理解し説明できるようになる。 2. Windowsの基本操作を理解し、エクセル、カルテ名人等の応用ソフトの操作ができるようになる。	
授業計画	1. オリエンテーション	0.5
	2. 社会福祉制度について	
	（1）社会福祉①福祉の理念	1.5
	②福祉の法と仕組み	2
	③福祉サービス給付の仕組み	3
	④障害者福祉	3
	（2）社会保障制度に関する学習のまとめ	1
	3. パソコンの基本操作	
	（1）スクリーンリーダーの設定	2
	（2）Windowsの基本操作	2
	4. エクセルの操作	
	（1）エクセルの基本操作	2
	前期計	17
	4. エクセルの操作(続き)	
	（2）初歩的な関数の学習	4
	（3）臨床実習施術担当者表の理解と操作	2
	5. カルテ名人の操作	
	（1）基本操作　①起動・終了　②画面構成　③登録・印刷の手順	1
	（2）再診カルテの入力練習	3
	（3）初診カルテの入力練習	3
	（4）共有パソコンへの保存	1
	（5）検索の練習及びカルテ読み	3
	後期計	17
	年度末計	34
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行う期末試験（筆記試験）の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。	
履修上の留意点	成績評価は期末一斉試験期間に実施し、中間試験は実施しません。	
予習・復習の 進め方	1. 授業の前にテキストを読んで予習をしておいて下さい。 2. パソコンの学習では、学んだスキルを活用できるよう、実施した課題の復習に取り組みましょう。	
使用教科書	教官作成のテキスト(墨字・点字・データ版)を使用します。	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	自然科学概論	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	講義　33時間	
担当教官名	桑崎哲治	
授業の内容 （授業科目の概要）	1. 細胞の化学的成分について学びます。 2. 細胞小器官の構造と機能について学びます。	
到達目標	理療教科における学習に必要な自然科学の基礎的な概念、原理、法則等を理解して説明又は記述できること。	
授業計画	オリエンテーション	1
	1　細胞の化学的成分	
	1. 元素	1
	2. 水	1
	3. 小有機分子	
	（1）糖質、（2）脂質、（3）アミノ酸	1
	（4）ヌクレオチド　DNA・RNA・ATP	3
	2　細胞の構造と機能	
	1. 核	
	（1）核膜	1
	（2））核小体	1
	（3）染色質、（4）染色体	3
	2. 蛋白質の合成	
	（1）転写	1
	（2）翻訳	2
	前期のまとめ	1
	前期末試験講評	1
	前期計	17
	4　細胞質の微細構造	
	1. ミトコンドリア	2
	2. リボソーム	1
	3. 小胞体	2
	4. ゴルジ装置	2
	5. リソソーム	2
	6. 中心体	1
	7. 微小管	1
	後期のまとめ	1
	後期末試験講評	1
	8. 細胞骨格	2
	5　細胞分裂	
	体細胞分裂	3
	後期計	18
	年度末計	35
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則の基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	中間期評価は実施しません。	
予習・復習の 進め方	講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。 講義後は配付資料を精通して復習し、内容理解に努めてください。 自己学習しても理解できないところがあれば、次の講義までに質問してください。	
使用教科書	ありませんが、教科書となる資料を配付します。	
参考書/参考資料	必要に応じて図などを配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	保健体育	
単位数	1単位	
授業方法と時間数	実技　30時間	
担当教官名	藤本　茂記	
授業の内容 （授業科目の概要）	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通して自身の身体状況を客観的に捉えることについて学びます。	
到達目標	1．運動・スポーツを生涯にわたって継続していく重要性を理解して、実践することができる。 2．運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。	
授業計画	前期内容	
	1．オリエンテーション	1
	2．体力測定（筋力、柔軟性、敏捷性、筋持久力）	1
	3．身体局所の動き（みんなの体操）	2
	4．陸上競技（投擲）	2
	5．ゴールボール	3
	6．フライングディスク（ディスリート7、ディスタンス）	2
	7．グランドソフトボール	3
	8．テーピング（セルフ）	1
	前期計	15
	後期内容	
	9．みんなの体操（座位）	1
	10．ブラインドテニス	2
	11．フロアバレーボール	3
	12．ボッチャ（ペア）	2
	13．ストレッチ（動的）	1
	14．ブラインドサッカー	1
	15．ゲートボール	1
	16．トレーニング（理論、実技）	2
	17．体力測定（持久力）	1
	18．ニュースポーツ	1
	後期計	15
	年度末計	30
実務経験の有無 その活かし方	有　リハビリテーション体育専門職	
	リハビリテーション病院での運動・スポーツ指導経験を活かして、トレーニングやストレッチを紹介し、2年次履修科目に関連する知識の幅を広げます。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験及び口頭試験)の平均点を学年末評価とします。（小数点第1位は切り捨て）	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更する場合があります。	
予習・復習の 進め方	1．テレビ体操やみんなの体操の放送時刻を把握し、「みんなの体操（立位・座位）」の動きを学習してください。 2．既習の内容については、体育的行事の活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。 3．事前・事後の学習は欠かさないようにしてください。	
使用教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布します）	
参考書/参考資料	競技規則集。競技規則の解説。障がい者スポーツ指導の手引き	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	生理学Ⅱ	
単位数	3単位	
授業方法と時間数	講義　90時間	
担当教官名	池田正道	
授業の内容 （授業科目の概要）	人体の各臓器・組織の生理作用について学びます。	
到達目標	あはき施術に必要な人体の機能の知識の習得を目指す。また、他の科目との関連についても理解し、知識を応用できるようにする。	
授業計画	1.　排泄	6
	2.　内分泌	9
	3.　生殖・成長と老化	8
	前期中間試験	1
	講評	1
	4.　神経	19
	前期期末試験	
	講評	1
	前期計	45
	4.　神経（続き）	7
	5.　筋	9
	後期中間試験	1
	講評	1
	6.　運動	7
	7.　感覚	4
	後期期末試験	
	講評	1
	7.　感覚	8
	8.　生体の防御	4
	9.　身体活動の協調	3
	後期計	45
	年度末計	90
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師	
	整形外科病院でのマッサージ経験をいかして、臨床と生理学の知識が結びつけられるよう、授業の中でできるだけ多くの疾患にふれ、その疾患の症状の発現のメカニズムを生理学的に説明します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。（小数点第1位は切り捨て）	
履修上の留意点	6、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
予習・復習の進め方	予習は必要ありません。復習をしっかり行って下さい。その際は、ただ用語等を暗記するだけでなく、生理学的機序をしっかり理解するようにして下さい。	
使用教科書	人体の構造と機能　生理学第3版　医歯薬出版	
参考書/参考資料	なし	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	病理学概論	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	講義　60時間	
担当教官名	岩本　稔	
授業の内容 （授業科目の概要）	疾病や症状の分類、原因、発生機序等を学びます。	
到達目標	国家試験合格及び施術者として必要な疾病に関する知識を身に着けます。	
授業計画	1. ガイダンス（授業の進め方、評価方法等） 2. 病理学の意義、基礎 3. 病因 （1）内因 （2）外因（栄養異常、物理的・化学的・生物的病因作用等） 前期中間試験 講評 4. 病変 （1）循環障害（充血、うっ血等） （2）退行性病変（変性・萎縮・壊死等） 前期期末試験 講評	1 2 10 1 1 14 1
	前期計	30
	4. 病変（続き） （3）進行生病変（肥大・再生・移植等） （4） 炎症（炎症の概念、原因、炎症の経過と転帰等） 後期中間試験 講評 （5） 腫瘍（腫瘍の意義・形態・構造等） （6） 免疫異常（免疫の仕組み、免疫応答異常、免疫不全等） 5. 総復習 後期期末試験 講評	 5 6 1 1 8 6 2 1
	後期計	30
	年度末計	60
実務経験の有無 その活かし方	有	按摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
	病院、接骨院での実務経験を活かし、実際の臨床でも応用できる疾患のポイントを紹介します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。（小数点第1位は切り捨て）	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
予習・復習の 進め方	教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めてください。また履修済み科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノートを作成するように心がけてください。	
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	臨床医学総論	
単位数	3単位	
授業方法と時間数	講義　90時間	
担当教官名	岩本　稔	
授業の内容 （授業科目の概要）	施術者として必要な西洋医学における診察法（医療面接及び身体診察）、臨床検査法、治療法の概要について学びます。	
到達目標	各種診察法や臨床検査法の意義、治療法の概要を説明できるとともに、得られた身体所見から疑われる疾病（疾患名）について診断推論できること。	
授業計画	【前期】 1．診察法 （1）診察の概要 （2）問診(医療面接) （3）視診 （4）打診 （5）聴診 （6）触診 （7）測定法 （8）生命徴候（バイタルサイン）	 2 2 4 10 4 4 10 4 5
	前期計	45
	【後期】 （9）神経系の診察 （10）運動機能検査 2．臨床検査法 （1）一般検査 （2）生化学的検査 （3）生理学的検査および画像診断の概要 3．治療法 （1）治療の意義と分類 （2）薬物療法 （3）食事療法 （4）理学療法 （5）その他の療法 4．臨床心理 （1）患者の心理 （2）カウンセリングの概要	 6 6 10 4 4 2 2 2 2 2 3 2
	後期計	45
	年度末計	90
実務経験の有無 その活かし方	有	按摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師
	病院、接骨院での実務経験を活かし、実際の臨床でも応用できる診察のポイントを紹介します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
予習・復習の 進め方	教科書や配布資料を精読し内容の理解に努めてください。また履修済み科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノートを作成するように心がけてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論第2版.日本理療科教員連盟教科書委員会編.東京点字出版所	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	理療臨床医学各論	
単位数	3単位	
授業方法と時間数	講義　90時間	
担当教官名	石川　健	
授業の内容 （授業科目の概要）	各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について学習する。	
到達目標	各疾患の主な特徴を理解し、概念や原因、症状、検査、治療法等について簡潔に説明出来る。	
授業計画	1. オリエンテーション	1
	2. 整形外科疾患 （保存療法と手術療法、関節疾患、骨代謝疾患・骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患、脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患）	43
	※前期中間試験	1
	前期計	45
	3. 神経疾患 （脳血管疾患、感染性疾患および脱髄性疾患、脳・脊髄疾患、基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、神経痛、頭痛）	30
	4. 一般外科 （外傷総論、ショック、熱傷）	4
	5. 麻酔科とペインクリニック （麻酔科、ペインクリニック）	4
	6. 精神科疾患 （精神科疾患の現代の分類、心身症、神経症、気分(感情)障害と統合失調症、摂食障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、アルコール依存症	6
	※後期中間試験	1
	後期計	45
	年度末計	90
実務経験の有無 その活かし方	有　はり・灸・あん摩マッサージ指圧師	
	鍼灸整骨院での実務経験を活かし、特に遭遇することの多い疾患については経験談を交えながら重点的に解説します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします。 (小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	1. 各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、国家試験の出題頻度の高い疾患や主に理療臨床で遭遇することの多い疾患等に重点を置きながら解説します。 2. 適宜、解剖学や生理学、臨床医学総論等の関連科目に留意しながら指導をおこないます。 3. 6月と11月に形成的評価のため中間試験を行います。	
予習・復習の 進め方	解剖学や生理学といった人体の構造と機能に関する知識については、教科書等を用いて逐次復習し、授業で学習した知識のベースアップに努めてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上巻・下巻	
参考書/参考資料	必要に応じて資料を配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	東洋医学概論Ⅱ	
単位数	3単位	
授業方法と時間数	講義　90時間	
担当教官名	絹見　昭洋	
授業の内容 （授業科目の概要）	はり師・きゅう師として必要な東洋医学の概念、病証論、診断法、東洋医学的治療について学びます。	
到達目標	東洋医学の基礎理論、病証論、診断法について理解し、東洋医学的治療について説明又は記述でき、更に治療に応用出来ることを目指します。	
授業計画	（前期内容）	
	1. オリエンテーション	1
	2. 東洋医学の基礎理論	16
	（1）東洋医学の意義と特徴	
	（2）陰陽五行	
	3. 東洋医学の生理観	16
	（1）五臓六腑	
	（2）気血津液	
	4. 経絡と経穴の概要	2
	5. 東洋医学の疾病類・病因論	10
	（1）病因（三因・三毒説）	
	（2）八綱病証	
	（3）気血津液病証	
	前期計	45時間
	（後期内容）	
	5. 東洋医学の疾病類・病因論 続き	12
	（4）臓腑病証	
	（5）経絡病証	
	（6）六経病証	
	6. 診断法	20
	（1）四診	
	（2）証決定	
	7. 治療	13
	（1）手技療法	
	（2）はりきゅう療法（補瀉・選穴・刺法）	
	後期計	45時間
	年度末計	90時間
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	臨床で経験した所見・病態などを東洋医学的観点から説明を実施します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価（何れも筆記試験）の平均点を学年末評価とします。（小数点第1位は切り捨て）	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
予習・復習の 進め方	東洋医学概論は3年次で学習する東洋医学臨床論や臨床実習の治療に必要な基礎的知識は重要となります。難解な言葉や漢字については事前に読みを調べることにより学習がスムースにすすみます。授業が終わったら必ずその内容を復習してください。東洋医学は自然界と人体の関りを学習する科目です。普段から体調と気象気候の関りを観察することが大切です。疑問はそのままにせず質問するようにしてください。	
使用教科書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第7版	
参考書/参考資料	必要に応じて資料を配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧師、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	講義/実技　60時間	
担当教官名	田端　里美	
授業の内容 （授業科目の概要）	人体における経穴の全容、経絡各論(十二経脈、奇経八脈)、経穴各論(経穴、奇穴、組合せ穴)、経絡及び経穴の現代医学的研究などについて学びます。	
到達目標	1．同身寸法、骨度法の概念を理解し、それを用いて人体に取穴することができる。 2．十四経脈の走行・流注の概要を理解し、説明することができる。 3．十四経脈所属の経穴を理解し、取穴することができる。 4．要穴を理解し、取穴することができる。 5．経絡・経穴の現代的研究の概要を説明できる。	
授業計画	前期内容 1．オリエンテーション 2．奇経八脈 （1）衝脈　（2）帯脈　（3）陽蹻脈　（4）陰蹻脈　（5）陽維脈　（6）陰維脈 3．奇穴 （1）頭頸部　（2）胸腹部　（3）背腰部　（4）上肢部　（5）下肢部 4．よく使われる経穴の組み合わせ （1）六つ灸　（2）小児斜差の灸　（3）中風七穴　（4）脚気八処の穴 5．経絡・経穴の現代的研究 6．要穴 （1）原穴・郄穴・兪穴（背部兪穴） （2）四総穴 （3）八脈交会穴 （4）八会穴 （5）下合穴 復習 7．十四経脈の走行・流注の概要、所属の経穴取穴法 （1）督脈 （2）任脈	1 10 7 3 2 4 5
	前期計	32
	後期内容 7．十四経脈の走行・流注の概要、所属の経穴取穴法（続き） （3）手の太陰肺経 （4）手の陽明大腸経 （5）足の陽明胃経 （6）足の太陰脾経 （7）手の少陰心経 （8）手の太陽小腸経 （9）足の太陽膀胱経 （10）足の少陰腎経 （11）手の厥陰心包経 （12）手の少陽三焦経 （13）足の少陽胆経 （14）足の厥陰肝経 8．総合　横並びの経穴 9．まぎらわしい経穴	25 4 1
	後期計	30
	年度末計	62
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末と後期末に筆記試験を行い、その平均点で評価します。	
履修上の留意点	1．6月、11月に形成的評価のため筆記試験を行います。 2．模型や身体を使って取穴し、見えなくともわかりやすい授業になるよう工夫します。	
予習・復習の 進め方	1．予習は、漢字の読み方や経穴部位の確認などを重点に行ってください。 2．復習は、習ったところをノートにまとめ、経穴部位の確認を行ってください。	
使用教科書	新版経絡経穴概論　日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会編	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅰ(臨床実習前試験等を含む)	
単位数	4単位	
授業方法と時間数	実技　124時間	
担当教官名	池田正道	
授業の内容 (授業科目の概要)	1年次に習得した基礎的な技術をさらに習熟させるとともに、疾患別に応じた問診・診察・治療法など、施術者として必要な応用的な施術に関する内容について学びます。また、臨床実習前(前期中間・期末、後期中間・期末の各試験)に施術実技試験等を行うことにより、臨床で活用できる知識や技術が身についているかどうかを評価します。	
到達目標	60分を目安とした全身あん摩ができるようになる。疾患別に応じた問診・診察・治療の内容について理解し、実施できるようになる。	
授業計画	前期内容 1. 1年次の復習 2. 部位別の施術 (1)肩背部 (2)上肢 (3)頭頸部 (4)腰殿部 (5)下肢 3. 肢位別の施術 (1)側臥位 (2)伏臥位 (3)仰臥位 ※2と3は同時に行います。 ○前期中間・期末試験(講評、臨床実習前実技試験等を含む) ●臨床実習前試験等 (1)環境整備(設備・器具の準備及び片付け) (2)医療面接 (3)身だしなみ、医療接遇、マナー (4)身体診察と施術計画 (5)配穴及び取穴法 (6)患者への説明責任と同意 (7)施術の実践 (8)安全な施術操作とリスク管理 (9)施術結果の把握 (10)施術後の対応(患者への説明・配慮)	4 52 6
	前期計	62
	4. 疾患別の施術 運動器系 (1)肩こり、頸肩腕症候群 (2)腰下肢痛 (3)五十肩 (4)変形性関節症(膝関節症、股関節症) (5)腱鞘炎 (6)捻挫の後遺症 ※授業の進行状況により、前期で上記の疾患を扱う場合があります。 スポーツ障害に対する総合施術 (1)アキレス腱断裂 (2)ジャンパー膝 (3)テニス肘 5. 各種物療器具の取り扱い 6. 模擬臨床実習 ○後期中間・期末試験(講評、臨床実習前実技試験等を含む)	42 8 2 4 6
	後期計	62
	年度末計	124
実務経験の有無 その活かし方	有　あん摩マッサージ指圧師	
	整形外科病院でのマッサージ経験をいかして、医療現場で行われている治療やその流れを紹介することにより、疾患やその治療方法について理解が進み、自分自身の治療が確立できるようにします。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(何れも実技試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	各学期の中間期、期末試験を臨床実習前施術実技試験として合わせて8時間実施します。また、臨床実習前実技試験等にある(1)(3)(8)(11)の評価項目については、試験の時だけでなく、普段の授業の様子も参考に評価を行います。	
予習・復習の進め方	できるだけ早いうちに60分位で施術できる自分自身の術式を完成させて下さい。自分自身の型ができると臨床に出て緊張してもなんとか施術できるものです。授業以外の場でも施術の流れをイメージしておくことは大切です。同様に問診や診察においても授業の内容を軸に教科書等を見て自分自身の方法・手順を確立するようにして下さい。	
使用教科書	理療基礎実習 【盲学校理療教科用図書編纂委員会編／日本ライトハウス】	
参考書/参考資料	あん摩マッサージ指圧理論、東洋医学臨床論	

令和3年度　授業計画書(シラバス)

課　程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学　年	2年A組	
科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	実技　64時間	
担当教官名	安田　晴幸	
授業の内容 （授業科目の概要）	主要な内科的症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧施術に関する知識と技能について学びます。あわせて、臨床実習参加に必要な知識及び技術並びに態度について学び、臨床実習前試験を行います。	
到達目標	1．主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行える。 2．主要な症状・疾患に対して適切かつ効果的にあん摩マッサージ指圧施術を行える。 3．臨床実習に参加できる知識と技術や態度を身につけている。	
授業計画	前期 1．オリエンテーション 2．施術者としての態度及び診察等について 3．1年次の知識と技能の確認 4．疾患別施術について （1）呼吸器系 ①咳嗽　②気管支喘息 （2）循環器系 ①高血圧症 前期中間・期末試験（講評、臨床実習前試験を含む）	 2 2 8 8 6 6
	前期計	32
	後期 4．疾患別施術について（続き） （3）消化器系 ①胃炎　②便秘・下痢 （4）婦人科系 ①月経異常　②更年期障害 （5）その他 ①頭痛　②神経痛（三叉神経痛、特発性肋間神経痛） 5．臨床実習に向けた全身施術 6．模擬臨床実習 後期中間・期末試験（講評、臨床実習前試験を含む）	 6 6 6 4 4 6
	後期計	32
	年度末計	64
実務経験の有無とその活かし方	無	

成績評価の方法	平常授業時は観察記録法により平常評価します。各学期末には実技試験を行い、平常評価と合わせて総括的評価とします。なお、理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を本科目の学年末評価とします。臨床実習前施術実技試験については、平常評価と各学期の中間期及び期末期の実技試験の平均点で評価し、臨床実習参加の可否を判定します。
履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣を清潔に保ちましょう。 施術中はクラスメートを患者と想定した態度・言動で臨みましょう。 実技試験では担当教官に加えて他の教官も参加することがあります。 なお、各学期の中間期、期末試験を臨床実習前施術実技試験を合わせて計8時間実施します。また、期末試験については放課後に実施します。
予習・復習の進め方	予習は、教科書をよく読んでおいてください。復習は、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行ってください。なお、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル（利用者向け）」第8章　授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照
使用教科書	東京都立文京盲学校理療科研究会著　理療基礎実習
参考書/参考資料	資料は必要に応じて配布します。

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	はりきゅう応用実習Ⅰ（臨床実習前試験等を含む）	
単位数	4単位	
授業方法と時間数	実技　124時間	
担当教官名	田端　里美	
授業の内容 （授業科目の概要）	施術者として必要な施術に関する知識と技術を学習するとともに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を身につけます。さらに臨床実習前試験を通して技術や態度等に関する臨床実習参加のための総合的評価を行います。	
到達目標	1．施術者としての基本的態度、礼節を身につけること。 2．主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行えること。 3．主要な症状・疾患に対して安全かつ適切、効果的な鍼灸施術が行えること。 4．臨床実習に参加できる知識と技術を身につけること。 5．鍼灸に関わる過誤・副作用について対処できる。	
授業計画	1．基礎技術の確認 2．臨床入門 3．各種鍼療法の指導 （1）小児鍼法 （2）皮内鍼法（円皮鍼） 4．症候別施術応用（日常遭遇しやすい症候への施術） 運動器系 （1）肩こり、頸肩腕症候群 （2）腰痛(坐骨神経痛含む) （3）五十肩 （4）変形性関節症(膝関節症、股関節症) ※ 前期中間期・期末試験（講評、臨床実習前試験を含む）	6 15 5 30 6
	前期計	62
	5．候別施術応用（日常遭遇しやすい症候への施術） 運動器系（続き） （5）腱鞘炎 （6）捻挫の後遺症 （7）スポーツ障害に対する総合施術 ① アキレス腱断裂　② ジャンパー膝　③ テニス肘 6．各疾患に対する特殊鍼法 （1）頸肩腕部疾患 頸部交感神経幹近傍刺鍼（星状神経節刺鍼） （2）坐骨神経痛 坐骨神経節刺鍼 7．はり、灸施術に応用できる物理療法 （1）温熱療法 （2）光線療法 （3）電気療法 （4）灸頭鍼 （5）その他 8．模擬臨床実習 臨床前試験等により患者に対して施術を行うに足りる総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることが確認できた場合、2月中・下旬を目処に模擬臨床実習を実施する。 ※ 後期中間期・期末試験（講評、臨床実習前試験を含む）	30 12 12 2 6
	後期計	62
	年度末計	124
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期末、後期末に各々1回、2時間ずつ計2回行い、理療教育実施細則に基づき学年末評価を算出して成績評価とする。なお、中間期試験は形成的評価として実施する。	

履修上の留意点	1. 実技技能を身につける科目のため、健康管理は普段から心掛けましょう。 2. 普段から身だしなみを整え、白衣等の清潔保持を心掛けましょう。 3. 実習中は、鍼刺し事故等の過誤が生じないように、充分留意してください。 4. 実習中は、教官の指示以外のことは行わないで下さい。 5. 年間を通して、応用的施術法だけでなく、臨床実習に向けた一連の流れを身につけることを心掛けましょう。 6. 各学期の中間期、期末試験を臨床実習前施術実技試験として、合わせて8時間実施します。 7. 臨床実習参加に著しい課題があると実技担当者が判断した場合、必要に応じて他の理療科教官も評価に加わることがあります。
予習・復習の進め方	1. この実習には、解剖学、臨床医学総論、理療臨床医学各論、経絡経穴概論の内容も含まれるため、事前に関連科目の内容を確認して下さい。特に診察に関連する解剖学的構造や疾患の概念、症状、徒手検査法の目的及び手順、経穴の取穴法について、予習をして実習に臨んで下さい。 2. この実技科目は繰り返し練習することが大切です。授業時間外に少なくとも週2回、各1時間程度のトレーニングをすることが望ましいです。その際は授業中に説明した注意事項を必ず守って下さい。
使用教科書	理療基礎実習第2版(上)(中)(下)　東京都立文京盲学校理療科研究会著
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。

令和3年度 授業計画書(シラバス)

課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科　専門課程	
学年	2年A組	
科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
単位数	2単位	
授業方法と時間数	実技　64時間	
担当教官名	今泉 正博	
授業の内容 （授業科目の概要）	主要な内科的症状・疾患に対するはりきゅう施術に関する知識と技能について学びます。あわせて、臨床実習参加に必要な知識及び技術並びに態度について学び、臨床実習前試験を行います。	
到達目標	1．主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行える。 2．主要な症状・疾患に対して適切かつ効果的にはりきゅう施術を行える。 3．臨床実習に参加できる知識と技術や態度を身につけている。	
授業計画	前期内容	
	1．オリエンテーション	1
	2．基礎的刺鍼手技	9
	（1）リスク管理	
	（2）刺入深度・刺入角度	
	（3）管鍼法と撚鍼法	
	（4）現行十七手技	
	3．特殊な鍼　低周波鍼通電療法	10
	4．主要症状・疾患別治療法	
	（1）咳嗽	2
	（2）気管支喘息	2
	（3）高血圧症	2
	※前期中間、期末評価（臨床実習前試験等を含む）	6
		32
	前期計	
	後期内容	
	（4）胃炎(悪心嘔吐)	2
	（5）便秘と下痢	2
	（6）月経異常	2
	（7）更年期障害（のぼせと冷え）	2
	（8）頭痛	4
	（9）神経痛（顔面痛）	2
	5．健康保持・増進のための施術	2
	6．神経学的検査	5
	（1）深部反射	
	（2）病的反射	
	（3）知覚検査	
	7．模擬臨床（前トレーニングを含む）	5
	※後期中間、期末評価（臨床実習前試験等を含む）	6
	後期計	32
		64
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	平常授業時は観察記録法により平常評価します。各学期末には実技試験を行い、平常評価と合わせて総括的評価とします。なお、理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を本科目の学年末評価とします。臨床実習前施術実技試験については、平常評価と各学期の中間期及び期末期の実技試験の平均点で評価し、臨床実習参加の可否を判定します。	

履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣を清潔に保ちましょう。 鍼刺し・火傷等の過誤を起こさないように、集中して慎重に練習しましょう。 各学期の中間期・期末試験を、臨床実習前試験として8時間実施します。 実技試験では担当教官に加えて他の教官も参加することがあります。
予習・復習の進め方	予習は、教科書をよく読んでおいてください。復習は、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行い、実習室以外では点火器具を使用しないこと。なお、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル（利用者向け）」第8章　授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照
使用教科書	東京都立文京盲学校理療科研究会著　理療基礎実習
参考書/参考資料	資料は必要に応じて配布します。